

特別展示『雲の伯爵—富士山と向き合う阿部正直』 見学会を開催

気象学史研究連絡会*

気象学史研究連絡会では2017年2月25日午後、JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」(日本郵便(株)・東京大学総合研究博物館が協働で運営;東京都千代田区)の特別展示『雲の伯爵—富士山と向き合う阿部正直』(主催:東京大学総合研究博物館、2月26日公開終了)の見学会を開催した。告知を「気象学史メーリングリスト」で行い、4名の参加があった(第1図)。

富士山に生じる山雲と気流に関する研究をその中心に据えた気象学者・阿部正直(1891-1966)については、近年遺族から関係機関に大量の資料が寄贈され、再評価の機運が高まっている。阿部が理学部物理学科を卒業し、また論文「山雲の形と気流」で理学博士の学位を取得した東京大学にも、写真(印画紙・ガラス乾板)、フィルム(写真・映画)、観測・撮影機器、図書、観測資料等、主に研究関係の資料数千点が寄贈された。見学会では、この大量の資料を整理され、本展示の企画に携わられた同館研究部門の大澤 啓特任研究員(美学・美術史学)に展示のねらいやアーカイブの構成・展示品の経緯などについて詳しい説明をいただいた。

当時最先端の写真・映画撮影技術を駆使して映像中心の研究方法を用い、またその映像には独自の芸術的価値も見いだせる阿部の気象研究は、気象学・科学史などの視点からだけでなく写真史・映像史などの観点からもきわめて独創的との理解を深めることができ

た。大量の資料整理はまだ進行中で、展示も今後内容を更新して再企画したいとのことで、さらなる発見が期待される。

本研究連絡会では気象学史に関する国内の学術研究推進のため、研究会合の開催やウェブサイトやメーリングリストを通じた情報・意見交換、公開のほか、このような気象学史関連の博物・資料展示や施設等の見学会なども今後随時実施していく予定である。

最後に、今回の開催にあたりご多忙のところご対応くださった大澤様をはじめ、インターメディアテクのみなさまに厚く御礼を申し上げる。



第1図 大澤特任研究員の「阿部の遺したものは芸術的価値も見いだせる」との説明に耳を傾ける。
空間・展示デザイン© UMUT works 2013

* 連絡先: 山本 哲 (気象研究所).
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
© 2017 日本気象学会